

どなたでも自由にとって下さい。



2016年夏・45号

信条・世に媚びず・粋にとらわれず
・言いたいことはハッキリ言おう

発行 〒583-0018
大阪府藤井寺市西古室 2-8-13
TEL・FAX 072-954-3312 吉田 進
〒110-0015
東京都台東区東上野 3-26-10 FC204号

URL : <http://www.kawaraban.ne.jp/>
E-mail : info@kawaraban.ne.jp



結婚ホヤホヤのイタリア人カップルがいたのは、ローマのコロッセオ。そこを通りかかった旅行中の日本女性群、大はしゃぎで彼らを囲み、広場はあつという間にミュージカルの舞台さながら。日本の若い世代も外国人も、ようやるわ。双方ともに国際人だと感心した。

CONTENTS

越後の良寛さんの魅力	2	残念な國定市長	9
ジョルジュ・シムノン		民進党は「保守リベラル」の	
－メグレになったベルギー人－	3	受け皿になりえるか	10
朝に思う	4	昭和・団塊世代の風景刻む作文集	
川柳散歩	4	「今」をあぶり出す教育現場の遺産	11
ミナセン大阪からあなたへ	5	泣く子に勝ても北朝鮮には勝てない	12
肥満の国、メキシコ	6	マダガスカル陸路横断紀行②	
時の人　ホセ・ムヒカ	6	遥かなるバオバブへの道のり	13
岩名雅記のCmジャーニー⑲		家庭でできる健康アジアメニュー⑥	
「国民、舐めるな！」	7	カサレス風ミルク雑炊.....オーシロカズミ.....	14
三条市における民主主義の崩壊	8	投稿　増山麗奈さんの政界挑戦に思うこと	15
全国一のマンモス小中一体校の惨状	9	恭子の日記⑥	16

越後の良寛さんの魅力

長野県 塩尻市 中島 敏正

松本近辺の仲間10人ほどで良寛勉強会をつくってから4年となる。

良寛との最初の「出会い」はすでに小学生の時にあるが、60歳の時に体調を崩してリタイアを余儀なくされ、精神的にも彷徨していた時に偶然出会ったのが、良寛に関する書物だった。

何故良寛が仏門の世界に入ったのかはいまだよく分かっていないが、道元（曹洞宗）に深く帰依した。これが良寛の一生を貫いた一本の太い線であったことは間違いない事実だと思われる。良寛については、通説によれば1万冊以上の各種本が今までに出版されており、聖書に次ぐロングセラーではないかと思ふくらいだが、一体その魅力はどこにあるのか。私見に基づき感じた魅力というものをいくつか列挙してみる。

① 「少年よ大志を抱け」と

いうような、たえず高みを目指す言葉とは真逆となるが、良寛は「知足」という言葉を

欲望に走る。そして「足るを知る者は富む」として、これで満足と知って心中豊かに過

ごし、実際そのような暮らした人であった。心の持ちようの核心も言いあてていると思うのだ。

② 良寛の当時の様子を記述した書に、近隣の良寛の外護者であった解良家の「良寛禅師奇話」がある。それによると、良寛が来て2、3日よく泊まる時があったが、その間むつかしい説法をするわけでもなく、訓話



使った。遺作にも「無欲一切足・有求万事窮」、欲さなければ一切足り、求むるあれば万事窮すということだ（異論もあることは承知だが）。

人間の心ふれて、人間はほっておけば、はてしのない

をするわけでもなく、家人や使用人にまじってカマドの火加減をみたり、家事の手伝いをする。また囲炉裏を囲んで家人と一晩、胸襟を開いて語りあかしたりする。そして数日の間には家中が明るくうち

解けて、皆ほのぼのとしてくるのが常だったと記されている。そして良寛の帰った数日後までその和やかな雰囲気は続いた。この話に良寛の真骨頂が表れていると思う。まさに人間愛にあふれた有徳の人というものが、しみじみうかがえるのだ。

③ 良寛が帰依した道元はくり返し、仏教者は「行雲流水」として雲のように一定の住所もなく水のように流れてよるべき場所をもたないのが僧であると説いた。

良寛はこの心の師と仰いだ道元の教えを忠実に守り実践した極めてまれな坊さんなのだと思われる。当時、江戸幕府の保護政策もあつて神社仏閣は栄耀栄華を極めたようだ。その中であつて11年間、岡山県円通寺で厳しい修行の後、国仙和尚より印可を授かったにも関わらず、一生涯一寺の住職にもならず、ほとんど山中に独居して乞食坊主を貫き通した。特に極寒での五合庵で20年近く越冬したことを思うと、魅力のレベルをこえて陶酔の感じになる。

④ 良寛は名主の長男として生まれたが、父（以南）も歌を詠むなど文士であった。良寛は歌、詩、絵等にすぐれた才能に恵まれて生まれてきた。いずれもおびただしい遺作が残っているし、素晴らしい作品であるのは3人が認めるところである。私にも気に入っている歌がいくつかある。心が洗われるのだ。特にそのうちの2つを紹介したいと思う。

◎ 『鉢の子に壘たんぼぼこきまぜて 三世の仏にたてまつりてな』

托鉢用の鉢に子供たちと一緒につんだ野の花を入れて、過去、現在、未来の仏様にお供えしましょう。という句。

◎ 『あわ雪の中に顕ちたる 三千大千世界 またその中に沫雪ぞ降る』

あわ雪の中に広大な世界が現われ、またそこにハラハラとあわ雪が降る、越後のはてしなく雪がつもる風景。

※三千大千世界 古代インド人の世界観による全宇宙

ジョルジュ・シムノン —メグレになったベルギー人—

鎌倉市在住 市川 隼



「野口久光の世界」より

司馬遼太郎は、「仏小説で、観念が好きならサルトルを読めばよく、人間の普遍的課題が好きならカミュが良く、人間そのものが丸ごと好きならシムノンが良い」と記している（『オランダ紀行—街道をゆく35—』）。

シムノンは1903年、ベルギーのリエージュで生まれた。今は、ガラス総張りの美しい屋根や壁を持つ駅舎のデザインで有名な街だ。シムノンは1989年に86歳の生涯をスイスで閉じたが、その年に蘭国に出掛けた遼太郎が、シムノンを偲び、敬意を表してリエージュまで足を伸ばした時に記したのが、先の

言葉だった。

シムノンは17歳の時から書き始めた習作を含め、四百冊を超える小説を書き続け、生活の為に書いた二百冊近い通俗作品や、百冊程のメグレシリーズ、アンドレ・ジッドに評価された、『雪は汚れていた』、『妻は二度死ぬ』等のロマン・ロマン（小説らしい小説）と評された百冊を超える文学作品を書いた。兵役を終えて19歳の時にパリに出て、その後は米国やスイスで過ごした。通俗小説で得た収入で小型船を建造し、船旅に出掛けた蘭国のデルフザイルで、船の修理中に書き始めたのがメグレ警視（『怪盗ルトン』）だったが、このシリーズが、彼を有名な作家に押し上げ、しばしば映画にも取り上げられた。

メグレは、サン・フィアクルの城館の管理人の息子として1886年に生まれ、22歳で警察官となり、26歳で結婚し、55歳の時に定年を迎えた時は、1941年だった（作品によって異なるが）。第一次世界大戦（1914年—1919年）、第二次世界大戦（1939年—1945

年）と、騒然とするパリで、メグレは生活し活躍したが、シムノンは、小説の時代背景に、戦争そのものを直接的には、余り取り上げていない。しかし乍ら、戦争で傷つき心が荒んだ人間達がしばしば登場する。「理論に影響を受け易い精神科医は、傑出した小学校の教師や、小説家、警察官よりも人間を理解していない」とメグレの友人の医師バルドンに語らせているが（『メグレと老外交官の死』）、犯人（人間）の心情を理解しようとする事に拘るメグレは、事件の物的証拠と同じように大切にするのが、事件に関わった人々の心的証拠だ。若い時に医者を目指し勉強したメグレが、選びたかった職業は、運命の修理人（『メグレと首無し死体』）だった。

「肩幅が広く頑丈で、180cmの巨体。肉付きが良く、椒味がかり、猪首。普段は口の中でぶつぶつ呟くようにしゃべる」とシムノンに描かれるメグレだが、部下にパトロンと呼ばれ信頼され、妻に愛され、同情すべき犯人達に、権威主義をひけらかす事はない。事件の背景を丹念に

調べる地味な捜査を、古い手法と上層部から批判されるが、人間を描き続けるシムノンの真骨頂が、メグレ警視に体现されているようだ。

パリのセーヌ川の北側を右岸と呼び、オペラ座界隈、モンマルトル、シャンリゼ通りと続く。南側を左岸と呼び、カルチエ・ラタン、モンパルナス、エッフェル塔。川の中には、メグレ警視が活躍するパリ警視庁のあるシテ島。島の対岸には有名な美術館が点在する。メグレを悩ます殺人事件も、これらの耳慣れた界隈で、爽やかな風が吹き、茹だる様に暑く、雨が休みなく降り続き、雪片が舞う季節に、時を選ばず発生する。現代のパリの空は、重い黒雲で覆われている。メグレならどの様に料理するのだろうか。



〔古パリ地図〕

朝に思う

東京江東区 斎藤喜代子

今日も良い天気でありますように。そう願いながら、東に向いたペランダのカーテンを引きます。そこから仲川、荒川、その向こうに都市高速が、そのまた向こうに船堀の街並みが見えます。そして、その先は東の空です。

見ることはできませんが、町の向こうは海なのです。

天気の良い、夜明け前の東の空はとても素敵です。街の明かりはまだ灯っています。高速道路には朝の早い車のライトが動いています。影絵のような街並みのその向こう、夜明け前の空は薄いスミレ色から、上空に向かって光り輝くウルトラブルー、藍色、深い群青色へとグラデーションになっています。その藍色の中に明



夜明け前、富士山から山中湖をのぞむ

けの明星が光り、三日月がまだ明るく残っていれば、藤城清治の影絵のような、童話の

ていた牛乳屋さんの話を思い出します。

まだ明けやらぬ朝、おうちに配達されたはずの牛乳がありません。町には人影は見えません。空には星と月がまだ輝いています。〇〇ちゃんはお月さまに、それからお星さまに聞きます。「お

星さま、お星さま、僕の牛乳を知りませんか?」「あら、見ていなかったわ。隣のお星さまに聞いてごらん」。隣の星へ、隣の星へと、質問は延々と続くのです。

ふと気づくと、子どもたちはもうすっかり夢の世界へ、お星様を訪ねていたのです。

その母は93歳、もう寝物語をすることも出来なくなりました。

以前は苦手で辛い早起きでした。ところが、年のせいでしょうが、今は、4時になるかならないうちに、すっきりと目覚めるようになりました。

世界が広がっているのです。そんな時、その昔、母が私たちに幼いこどもに話し聞かせ



川柳の「笑い」とは、つけられた吉本流のゲラゲラ笑いじゃなく、心の底から湧き出すほのぼのと香り立つ笑い。さて、「涙も枯れた」という熊本大震災を川柳にするのは至難のわざ。だが、あえてそれを川柳にしてみた。

大地震夢ならいいねと子らがいう。そう、その悪夢は正夢やっただね。残念。

清正の城ゆれ落ちて民は泣く
築城400余年の名城は、熊本県民の誇りで、シンボル。早く復興したいもの。

山は割れ大地裂けて人沈む
山が崩れ人をのんだ。ただ、慄然たる思い。

静まれと大地の神に手を合わせ
震度1以上の地震は1500回超。怒れる自然にただ祈るしかないのが虫の如き人間。

円株もどうでもいいや大地震
一瞬、金欲を忘れた大地震。「でも、気が付いたら、やっ

ぱりカネのことが」と言う人も。

アベノミクス何のヘチマぞ大地震 命あつてのものだねと思うが、のど元すぎれば熱さ忘れるが人間の性。欲望という電車に乗った人生の旅はつきない。

家倒壊観光でない車中泊
車中泊、それも年寄り子供優先で、若者はカヤの外。

車中泊、軽、より大車が欲しかった。そうでもね、しがない人生、燃費節約優先。それは今後の緊急課題。

わが寝ぐら2階だけと決めました
阪神大震災もそうやっただが、倒れたビル、家屋の1階はべちゃんこ。2階に寝ていた人は助かったケースが多い。

生かされたつくづく知った大地震
そうやね。一寸先はヤミの人生やから、人間は悔いなく生きなあかん。

熊本の雨の予報が気にかかる
慈雨も被災地にとつては涙雨。

4月は入学、就職、人生のスタート月。以下の俳句が寄せられました。

紺碧の空に勝るやこころざし
朝明けや雲間の光宇宙感

ミナセン大阪からあなたへ

〜生きづらい世の中を一緒に変えませんか?〜

——「ミナセン」って、いったい何?

それが大半のみなさんの反応ではないでしょうか。選挙に関心のある一部の人たちの間でいまや一大ブームとなっている「ミナセン」。「ミナセン」とは、「みんなで選挙しよう」の省略形で、堅苦しく言えば「市民選対勝手連」。その今風のネーミングというところでしようか。

今年の夏に行われる選挙に向けて、とにかく自分も何かしたい!という人たちが、全国各地で「ミナセン」を立ちあげ、今も続々と新しく立ち上がっています。今年1月の時点で全国で30グループ。それがいま、どれだけ増えているかは、ちょっとわかりません。

——でもなんで今、「ミナセン」なの?

誰が号令をかけたわけでも誰かに強制されたわけでもない。いつの間にか「ミナセ

ン」という言葉がネットを通じて日本中に広がり、大阪でも当然のごとく「ミナセン」が立ち上がりました。「ミナセン」に関わるすべての人の中にいるのは、ただ一つのこと。夏の選挙の結果次第で、この国が取り返しがつかないほど大きく変わってしまうかもしれない危機感です。自民・公明・おおさか維新など改憲派の勢力が3分の2以上の議席を取れば、安倍政権は必ず憲法改正の発議を行うでしょう。それだけは何としてでも食い止めた。選挙も政治もど素人の私たちだけで、きつと何かできることがあるはず!

これが全国各地で「ミナセン」を立ち上げた多くの人に共通する思いです。——でも憲法改正って、よくわからない。

そうですね。安保法制とか憲法改正とか、あまり実感がわかないし興味もないという

人は多いと思います。毎日の生活を送るだけで精一杯で、余計なことを考える余裕なん



てない…。でも、毎日こんなに余裕がないのはなぜなのでしょう?

学費が高すぎる、奨学金を返せない、正社員になれない、非正規の仕事で生活が大

変、共稼ぎでないとやっていけない、なのに保育園落ちた、老後の生活が心配、医療保険も介護保険も上がった、でも年金は下がった。

「いつの間にか日本はこんな暮らしていく国になってしまったんだろ?」こんな思いを抱いている多くの人に、

ミナセン大阪からのメッセージを送ります。

「〜生きづらい世の中を一緒に変えませんか?」

いま、教育や社会保障に使うお金はどんどん削られ、軍事に使う予算は毎年増え続けています。安保法制や憲法の問題は、実は私たちの生活に大きな影響を与える問題なのです。

——でも、世の中を変えるなんて、簡単にできないのでは?

いま新聞やテレビのニュースで「野党共闘」が取り上げられています。いままでバラバラだった野党が協力して選

挙に取り組むことで、与党の議席をひっくり返してしまおうという、いまだかつてない試みです。

「選挙なんて行っても仕方がない、何も変わらない」そう感じている人は多いことでしょう。でもこの夏の選挙は違います。今まで棄権していた多くの人が関心を持って選挙に行けば、政治を変えることはできるのです。

ミナセン大阪は、このことをたくさんの人に知ってもらうため、選挙に関心を持ってもらうために、これから活動を続けていきます。何をすればいいのか、一からの手探りです。ワクワクするような、今までなかった選挙のために、できることには何でもチャレンジ!

みなさんもわたしたちと一緒にちょっと選挙してみませんか?



肥満 (obesidad = オベシダド) の国、

メキシコ

筆者は1950年生まれ スペイン語研修中の年金生活者でメキシコ・シテイ在住

とにかくメキシコの女性はボディコンが好きで、レオタード (malla = マジャ) が好きで、レオタードでなくても、脚より細いジーンズが好きで：：：なんだけど、兎に角肥っているのである。肥っているでもボディコンなのである。ボディコンなので太っているのがあからさまなのである。いやいや朝のウンデイド公園のジョガーは結構スリムでつい見とれるような肢体の女性もいる。いるけど、圧倒

的な少数派である。大概の女性のお腹は、豊かな乳房とほぼ同じほど、出っ張っているし、お尻はといえば、後ろにバンと出っ張っていないお尻は全く魅力がないのだそうだ：：。いや僕はつい女性に目が行くが、男性も勿論たいてい肥満である。僕が外国で暮らすのはバンコクとこの地しかないけれど、出張で訪れた他の街でも勿論女性に目が行くわけで：：、こんなのは初めてである。

とにかくこの地の肥満の状況は凄い。女性たちも気にしていないというか、平気で旺盛な食欲を満たし、脂肪豊かな肢体をボディコンのレオタード (若しくはレオタード相当の細いジーンズ、しつこい?) と伸びる素材のTシャツまたはサマーセーターみたいな生地の上着で乳房と、お腹、尻廻りに溢れた脂肪：：を曝け出して？：いる：：：んだなあ。何でもこの国はアメリカ合衆国を抜いて、肥満度世界一になったそうである。でもこれも貧困の側面である：：と感じる。とにかく炭水化物と動物性脂肪の摂取量がすごいもんなあ：：。(H28/4/15)



左の山のように見えるのが「太陽のピラミッド」、その右にある大きな道が「死者の大通り」、女性が座るのは「月のピラミッド」(テオティワカンの遺跡群)

時の人 ホセ・ムヒカ

世界一豊かな大統領

「貧乏な人とは、少ししかものを持っていない人ではなく、無限の欲があり、いくらあっても満足しない人のことだ」。

「ホセ・ムヒカの言葉」の本が売れている。彼は、世界で最も貧しいウルグアイ前大統領で、ゲリラ活動で過酷な獄中生活13年間を耐えた人。冒頭の言葉は、まさに仏教の「幸せの方程式」少欲に通じる▼また「私は、消費主義を敵視している。その社会は、もっとも大事なものを奪っている」「余裕のある人には弱者を助ける義務がある」「私は社会主義者として闘い、潰され、砕かれた。でも、私はまだ夢を見えます」という彼は、「大統領年俸百数十万円の9割を社会福祉へ還元している」と言うのに胸を打たれた。夢を政治で実現し、さらに夢を見続ける彼の虜(こ)となってしまう。国民の多くは、彼をべべと呼んで慕っているという▼「お金の好きな人たちは、政治の世界

から出て行ってもらう必要がありません。でなかつたら、政治家たちは汚職家たちの溜まり場です」、ほんまにそうなんや。それは、資本主義国も社会主義国も変わりません。▼タックスヘイブン(租税回避地)のパナマ文書を見てごらん、中国・習近平主席周辺の人物も含め・同国企業数はダントツの約2万5000社。次に同ロシア・プーチン大統領を含め4100社。同米国3600社、日本400社と続く。問題は、中国の「臭いものにはフタ」の報道統制。そして今、日本では舛添都知事によるセコイ政治資金の公私混同が国民の怒りを買っているが、それも氷山の一角。また、のど元すぎれば熱さ忘れることになりかねないのか▼私たちは金欲まみれの連中を議員に選んではならぬ。選んだら、引きずり下ろす義務がある。国政選挙は近い。



時間を遡行できないならばせめてこの脚で /

岩名雅記の Cm ジャニー21

「国民、舐めるな！」

いわな まさき / 舞踏家、映画監督 (フランス / 南ノルマンディ在住)

昨年9月の安保 / 戦争法案の(可決とはどうにも言えない)国会通過から半年、今年3月には法案が施行された。然しながら参院選までは実施に動き出さない政府権力の何ともずるい(ぬらりくらり)が続いている。

一方で昨年来、顕著に運動の先頭に立ったシールズのお

かげで市民運動が逆に野党統一の引き金になるという新たな局面が生まれた。そこでひとつの成果が生まれた今、シールズが標榜するキャッチのひとつ「国民舐めるな！」について検証するところききたように思う。シールズの行動力には頭が下がるし、その誠実さ、率直さは必ずや人の言葉を受け止めることの出来るしなやかさがある筈だ。

何を俺は言いたいのか——日本に住む者は日本人だけではない。而してその方々は当然ながら日本の権力の統制下にある。どうしたらいいんじゃない？ しかも過去100年以上前から東アジアの各地で日本国は数々の汚点を残してきてしまったし、その東アジアの人びとや他の外国人もいま大勢日本に住んで生活をしている。そろそろ「国民」ではなくほかの言葉を見つければいいというのが僕の提案だ。

かくいう僕は在仏28年で当地においていまだに選挙権もない。しかしフランスでは

ひとたび政治的な問題が起こったとき「フランス人舐めんな！」とは言わない。「我々」つまりフランスに住む全ての一般市民を舐めるな、というわけだ。もちろん日本とフランスとはクニの成り立ちが違う。フランスはいわば移民 / 異民による合成国家だ。しかし仔細に眺めれば日本だって大和民族のみならずアイヌ民族あり、琉球民族あり、そして朝鮮民族や中国人、そのほか世界各地の人びとの住む合成国家なのだ。



話を戻すと、この100年に渡る日本国の(恥知らずな)行動の歴史と、現在多数の外国人が日本に住んでいることを考え合わせて「(国民)舐めんな！」を何か別な言葉にしようという提案なのだ。もちろんこれは言葉の変更の問題ではなく、世界を、人類を、生命をどう見るかという巨大な問題だ。

ときあたかもヨーロッパでは難民問題が大きな波紋を広げている。この難民問題とは言葉を変えれば国民や国家というこれまでの「垂直な箱」ではなく、箱を超えた為政者(権力)と一般大衆との不断にして「水平な闘い」の始まりを暗示していると思う。この難民問題を契機に「国民舐めるな！」のキャッチフレーズを考えてみるべきだと思う。むしろ難民問題は一筋縄でいくわけがない。むしろヨーロッパ統合の理念がEUを産

み出したにもかかわらず、各国の思惑の違いがその流れを微妙なものにしている。

「乗り越えネット」の辛淑玉さんみたいに「国民だけじゃないのよん」とやんわりいう人もいるし、研究者・鄭玟汀さんみたいに直球を投げつけてくる人もいる。それでも根底にある願いはひとつである筈だ。あらゆる社会問題の原因が「貧困と差別」であるとすると、まさにそれを乗り越えるためには、この「国民」というフレーズの再考から始めたらどうだろうか。

更にもう一つ。急進左翼の排除みたいなことがときどき囁かれているけどこれもどうか？ 奥田愛基さんがまさに昨年の中央公聴会で述べたように「集団やセクトではなく大切なのは個」であるとしたら俺は急進派であろうと何であらうと個人として全ての人を受け入れるべきだと思ふ。今俺たちは俺たちの生活の命運をかける「待った無し」の歴史的な時間のなかに行っていることを明確に刻印すべきだと思う。

民主主義の崩壊

恫喝訴訟、情報非開示、政治信条による市民差別、議会での答弁拒否、やりたい放題の独裁市長が民主主義を蹂躪している。



新潟県三条市 会社社長

外山 晴一

私の住む新潟県三条市は金物の街として知られている。

この三条市の國定勇人市長は「自分と違う考えを持つ市民の話は聞かない」と公言する「びっくりぼん」の独裁市長である。同市長は総務省出身で1972年、東京都生まれの四三歳。2006年の市長選で初当選した。國定市政が始まってから、三条市では民主主義が蹂躪されている。

民主主義の第一歩は権力者が情報を開示することである。開示された情報に基づいて議論し、合意が得られなければ多数決で決する。ところが國定市長は情報を全く開示しない。それどころか、情報開示を求めた善良な市民をいきなり裁判所に訴える驚くべき反民主的権力者だ。権力者が発言封じなどのために威圧的に市民を訴えることをスラップ訴訟（恫喝訴訟）とい

いが、欧米では言論の自由を揺るがす権力者の暴力だとして禁じられているところが多い。しかしながら國定市長はこの訴訟という手段を使ってまで市民を恫喝し、恐怖で統治しようとする独裁市長である。國定氏が市長になるまで、三条市は平和な街で、市には顧問弁護士がいなかった。國定市政が始まってから十年余になるが、この間に、市長が市民を訴えた裁判を皮切りに続々と市長と市民との間に裁判が起き、訴訟の街、恐怖の街と化している。訴訟に際して、市長は市の金で相手の数十倍もする高額な弁護士を雇い、裁判所の証人も自分の代わりに市職員を使う。一方、相手の市民にとっては金銭的、精神的負担は甚大なものになる。

このように國定市長はスラップ訴訟、情報非開示、政治信条による露骨な市民差別、議会での答弁拒否など民主主義に反する政治手法を平気で用いる。自分は選挙で選ばれたのだから世論は我にある、法律に触れなければ何をやっても良いと言う人である。このような市長が三期も続いていく背景には、三条市で圧倒的な購読シェアを誇る地元新聞の後押しがある。この新聞の主筆は市議会ですら「与党」会派のボス議員である。報道の自由は権力を批判するためにある。逆に新聞が権力に迎合すると戦時下の日本のように大衆を誤った方向に扇動する。この地元紙によって世論操作される三条市は戦時中の日本と同じ状況だ。市議会はどうか。市長を支持する議員の地元には予算がつき、議員が実質経営する会社と市が契約を結び、議員の親族を市役所で雇用するなど的手法で議会は骨抜きにされた。

そればかりか、市と取引のある会社の役員と議員との兼業違反で本来は失職すべき議員や婦女暴行で刑の確定した議員を市長派全員で守るという恐ろしいモラル低下を引き起こしている。結果、「私は市長の与党だ」「選挙で選ばれた市長に賛成するのが民主主義だ」などと議員の役割を自己否定し、市長提案に無条件で賛成する議員が増え、市議会のチェック機能は失われた。市長派議員の多くは議会では発言せず、居眠り三昧である。

市民にも市長派企業には市の仕事の発注や市の不動産の格安払い下げ、補助金と称したバラ撒きが横行する。このような露骨な市長による市民差別のため市民関係がぎすぎすし、険悪になってきている。また、市長自身や市長派有力者による有形無形の圧力で市長批判が出来ない雰囲気になり、民主主義的言動は影を潜めた。

この反民主的、人権無視の國定恐怖市政の弊害は市役所の職場環境に最も色濃く出ている。職員の長期病欠、中途退職が増え、あげくの果ては自殺者や事故死者が相次ぐ悲劇さえ起こっている。

三条警察署はどうか。市長派議員による脅迫を訴えに行った市民を「警察は体制の味方だ」と言って追いつき体たらくだ。

このような三条市に

三 条 市 に お け る

全国一のマンモス小中一体校の惨状

元小学校校長 濱田伸子



欠陥だらけの三条市の巨大小中一体型校

國定市長は、市民団体が行った統廃合反対の住民アンケートを「1頁たりとも読まない」「特定の考えの団体」と無視しました。そして、小中一貫教育の名のもとにまやかしのまやかしを重ねて全国一のマンモス小中一体校を建設したのです。しかし、開校2年目にして小中一体校の惨状は目を覆うばかりです。

國定市長が「東京の一流ホテルに負けない」と自慢した3階の可動床プールは早くも壊れ水泳の授業ができません。全国の小中一貫教育サミットで公開された小5と中2の「枕草子」の合同授業は、小中どちらも学力が保障されない形だけの授業でした。それでも、成果が上がったとPRし続けています。

教育への介入は当たり前とする國定市長によって、三条市の教育は破壊の一端をたどっています。

残念な國定市長

前三条市議 西川哲司

10年前、ルックスや経歴の良さ、フットワークなどを売りに東京からやってきて全国最年少で当選。当初微かに期待しましたが、「自分と違う意見は聞かない」と言い出すなど彼の独善的な本性が次第に明らかになるに連れ、失望に変わっていきました。議会では微力ながら國定市長に質問・発言してきましたが、いわゆる「野党」と言われる我々議員に対しては常に横柄な受け答えでした。選挙に勝ったのだから何を言ってもいいという態度は、そもそも人間としてとても残念です。それに加えて、良いことは良い、おかしいことはおかしいと発言しない議員が多いことも情けない話です。



三条市の教育を良くする会 著

A5判 250項
定価 1,200円 (税込・送料別途)

※10冊以上ご購入の場合、送料無料

申し込み・問い合わせ先

〒955-0852 新潟県三条市南四日町 3-6-43 外山工業内
担当：太田隆

Tel. 0256(33)0272 fax 0256(35)0468

2014年、生徒数1500人規模の巨大な小中一体型校が開校した。この学校は住民の強い反対にもかかわらず適正規模であった3つの小学校を統廃合し、中学校と一緒に狭い敷地に無理やり押し込めて作ったものである。國定市長は地域の意向を黙殺し、まやかしと独断でこのマンモス校を建設した。当初から建設事業の不透明性も指摘

されていた。その結果、住民の危惧通り、出来た校舎は欠陥だらけで、これもまた裁判沙汰にまでなっている。この巨大一体型校建設に反対した市民の闘いの記録を収めた書籍「まやかしの教育」が出版されている。是非購読され、三条市で教育と地域そして民主主義が破壊されていった様子を知っていただきたい。

「民主党が野党結集に前向きでない」

民主党はそんな批判を、たびたび市民グループから浴びていた。マスコミの論調もおおむねその通りだった。

しかし、実情はそう単純ではなかったのではないか。共産党はトップが「連合政府構想」を打ち上げたが、事前に他の野党や共産党の地方議員にも相談がなかったようだ。むしろこの発言が突出したことで、野党結集が進んだ地域もあれば、動きをしばらく地域もある。参議院選挙の一人区をめぐっても、どのような形で「野党一本化」をすればよいかは地域事情が千差万別なのだ。何とか「安倍一強を打倒したい」という思いがなかなか形にならない日が続いた。

状況が動いたのは、「ダブル選挙をうらなう」とされる注目の北海道5区ダブル選挙で、野党の選挙協力がつくられたことだ。市民団体が間に入ってよびかけ、事実上の候補者一本化が図られた。統一予定候補者がシングルマザーで、福祉の現場から一念発起して政治にチャレンジする苦

労人である一方、与党の予定候補が自民党重鎮の娘婿で、エリート色の強い商社マンというわかりやすい対立軸が生まれている。

民進党は「保守リベラル」の受け皿になりえるか

旧「民主党」秘書

そして、衆議院予算委員会の審議が大詰めとなる2月19日、安保法案廃止法案提出にあたって5党党首・代表が会談した。そこで民主党・岡田

代表が次の4点を指摘、5党での合意が行われたのだ。
(1) 安保法制廃止と集団的自衛権行使容認の閣議決定撤回を5党の共通目標とする。



(4) 国会における対応や国政選挙など、あらゆる場面で5党のできる限りの協力を行う。
これで、ようやく野党5党が全国で協力が全国で協力してたたかう体制ができたといえる。民主党が、「民進党」として新しく出発したのはそうした流れのなかにあった。衆議院96名、参議院60名。野党の大きな塊を目指して、今後も力を合わせて安倍政権に立ち向かっていくことも確認された。

(2) 安倍政権の打倒をめざす。
(3) 国政選挙で、現与党およびその補完勢力を少数に追い込む。

民進党の柱は「共生」と「立憲主義」

につきている。政治は弱い立場の人たちにある、という根本を、新しい党をつくるにあたって民進党はしっかり確認した。これまで民主党が進め

てきた格差の是正をしっかりと進め、新しく加わった仲間の得意分野(無駄な公共事業の見直しなど)も活かして、よりパワーアップしていかねばいけない。

2016年度予算案成立後、TPP関連法案の議論が真っ黒な「のり弁」資料だったことや年金損失5兆円の発表を7月末にずらすなど、安倍政権は選挙に不利な情報は徹底的に隠ぺいする姿勢が明らかになってきた。アベノミクスが強い者のためだけの政策であることが明らかになり、ごまかしがきかなくなってきたからだ。

グローバル化した経済のもとで、マイナス金利をやったところで設備投資がストレートに増えることはない。大事なのは、人への投資を増やして、消費を促進し、ボトムアップ型の経済を作り上げること。そのヒントが、地域でのNPOの活動や町おこし、女性の社会的起業などについて探している。民進党は、ヒントを探して地域を走り回るのから始めたい。

昭和・団塊世代の風景刻む作文集

「今」をあぶり出す教育現場の遺産

三枝のせい

雨ふり

雨雨ふれふれ かあさんが
 じゃの目でおむかえ うれ
 しいな
 ぴちぴちちやぶちやぶらん
 らんらん

かけましょかばんを かあさ
 んの
 あとから行こう行こう かね
 がる
 ぴちぴちちやぶちやぶらんら
 らんらん



鹿児島県の入来町立副田まくだ小学校の「作文集」(1953年)。昔は「二十四の瞳」の大石先生や「雨ふり」の文章を寄せた橋口先生のような教師がたくさんいた

ある土曜日の第四時限のこ
 とである。校庭は十時頃から
 降り出した雨が止む気配もな
 く小さい水たまりまで作って
 雨の輪をいくつもつくってい
 る。ちょうど一年生の音楽の
 時間とみえて雨ふりの歌がき
 こえてくる。私はこの音楽の
 時間の歌声をききながら、ふ
 と、こういうことを考えた。

——一体このこともた
 は、何人のお母さん、おとう
 さん達がおむかえにきて下さ
 ることだろうと……

私の学級では、お父さんや
 お母さんのおむかえにきて下
 さるのは、四十七名中二、三
 人のものしかない。他のもの
 は走って帰るか、小雨になる
 のを待って帰るかである。こ
 の歌のように、じゃの目でお
 迎えに来る家庭の子どもは、
 この学級、学校を通して極く
 僅かの子供たちである。けれ
 ども文部省検定済の教科書で

あつてみれば、日本にはこの
 ように、じゃの目がおむか
 えに来る家庭が多いのかも
 知れない。そして

・「ぴちち ぴちち」の発音
 に気をつけて

・リズムをしつかり

・「らんらんらん」を浮き浮
 きと楽しそうに歌いませう
 と教えれば即ち「深い美的情
 操と豊かな人間性」とが養われ
 円満な人格をもった好ましい
 社会人としての教養」がつく
 のだろうか？

迷う教師の前には疑問は疑
 問を生んで果てしがない。

私はこの歌と現実が、余り
 にもかけ離れた遠い夢の世界
 のようなものであることを想
 う時に、事実今ここに皮肉に
 もその歌が歌われているし、
 外は雨が降っている。家庭の
 裕福な子供たちにとっては嬉
 しい楽しい雨であるかも知れ
 ないが、歌の文句にはおおよそ
 縁遠い家庭の子供達であつて
 みれば、何となく可哀想な気
 持ちになつてくる。

だが見よ。降りしきる雨の
 中をはだしのままかけ出し
 て行く子供。見れば手に大事
 そうに抱えているのは運動靴
 だ。この靴をぬらしては明日

履いてくるものがないたった
 一足の大事な靴だ。この子等
 は「ジャンメデオムカエ」な
 どは待っていない。自分の道
 は自分で切り開いて行こうと
 する。

泥をはねた足、あの澄んだ
 健康そうな瞳に期待しよう。
 現在の日本は、苦しいことに
 耐える子供がほしいのだ。私
 はこのようなことを考える
 時、何か暖かいものがこみあ
 げてきた。私はこの子供たち
 のうしろ姿を見送って窓辺に
 立った。

これは1953年に書かれ
 た橋口強一先生の「雨ふり」
 と題する文章である。旧鹿児
 島県薩摩郡(現薩摩川内市)
 入来町立副田まくだ小学校の全校生
 徒と先生たちの作文集に掲載
 されている。同校1年生だつ
 た私の友人が「お袋が大切に
 持っていてくれた」と見せてく
 れた。冊子の向こうには、私
 たちの失った昭和の風景が刻
 まれていた。

黄ばんだわら半紙のガリ版
 刷りからは、団塊世代が小学
 生だった往時の匂いがたちの
 ぼる。貧しさを社会全体が享
 受した。雨の校庭を見ながら

子どもたちの家庭に思いを馳せ、「雨ふり」の歌に対する指導要領への真摯な疑問を吐露しつつ、背筋を伸ばして成長するよう願う先生の豊かな想像力と感受性。

人間にとって大切なものの教育の果たす役割が率直に記されていることに驚く。この想念を巡らせていた彼の瞳のあたたかさや深さに、今の時代を流れる空気との違いを感じる。

じるからだ。
今、社会全体が息苦しい。権力や保護者という壁の前で立ちすくむ教師たちの目線は主役である子どもにはなく、学校を管理統轄する機構

に向いている。のびやかさをねじ伏せられ、指導要領でガチガチに縛られた管理システムのなか、いきいきとした授業を展開できるわけがない。モンスターペアレンツと揶揄さ

れる保護者の中にもエキセントリックにならざるを得なかった経過があるだろう。戻れない「時」の空気を孕んだ全校の記録は、今をあぶりだす一つの遺産でもある。

泣く子に勝っても北朝鮮には勝てない

東京 江東区

三田 栄 考

米韓合同の史上最大規模の軍事演習は何か本格的戦争にならずに済んでやれやれだ。お互いの相手が威嚇して

くるのを承知して空砲を撃ちまくるのだから危険極まりない。私は核ミサイルがこの瞬間にも誤判断で飛んで来ないかと逃げようのない原爆に恐怖を覚えたことがある。ソウルを狙って先制核攻撃の口実を得ようとする北朝鮮、斬首作戦と称して金正恩第一書記の命を狙う訓練を公開する米韓。いやはやどちらもギリギリの挑発を繰り返して、おまけに「お前が悪い」などと言ったものだ。どっちも悪い！テレビドラマでもそうだ、いきり立った凶悪犯に

は「まあまあ落ち着いて」と優しくゆつくり説得するのではないか。
日本上空を通過したらバト



リオット(PAC3)で破壊するなあっていうがこれでうまく落とせても、落とせなくてももっと危ないじゃないか。ましてや突然の襲撃に数

分で全部を落とせるはずはない。撃ち落さなくても迎撃するだけで北朝鮮にしたなら「攻撃されたから断固反撃する」と本気で撃つ口実になるのではないか。それがこちらからみて正当でなくても相手に言い分を与えては戦闘の拡大になる。力・軍事力による均衡は解決にならないのは歴史が示してきた通りだ。

北朝鮮には軍事でなく対話で

と全国紙に投書があったが同感である。「日朝が軍事力で角突き合わせればチキンレースに陥り本当の戦争になつてしまう」ハイジャック事件でも犯人が刃物か、銃か、爆弾かで対応の仕方がま

るで違う。金正恩氏は核ミサイルを持っていてのだから。鉄砲で撃ちあう時代ならやつつけることもアリだが、核・化学兵器の時代に叩きのめすのは不可能だ。警戒している

ピョンヤンに乗り込んで首脳陣を拘束して政権を奪取維持できるはずがない。一歩間違えば双方に人類史上最悪の被害が起こる。私はかつて金日成主席時代に訪朝したが向こうにも多くの普通の市民が生活していた。今日、軍事独裁ばかりが報道されるがその裏に生きている街や村そして善良な国民を忘れてはならない。日本では拉致事件のみ批判するが(もちろん拉致は許せませんが)、戦前我々日本国は実質的に何十万もの朝鮮人を強制的移住(拉致?)させたし、韓国と違い北側には何の償いもしないことを心に留めておくべきだ。

佐藤優なる評論家がいる。

主流の正統外交官でなかったから面白い見方で世界を見ている。金正恩氏が「自分と同じ(急激な)肥満体で病気に陥りやすく、それゆえに判断の誤りや自暴自棄になったりする危険性を危惧し、王道教育された彼は責任感というものを全く教わっていない。自分は何をしても良い、全て正しいと取巻きはおだてている、もはや中国・ロシアの助言圧力には耳を傾けない。意外に体制外の米国や日本の首脳に誠意と熱意ある苦言が功を奏する」かも知れないと説く。

泣く子には口を塞げば良いが、北朝鮮には残念ながら言い分を聞いて論じてやるのもっとも効果がある。もっとも危険性が少ない。もっとも費用がかからない。先の投書子は訴えていた「現実をキチンと直視し丁寧に対話の一手を打つべきです」。

マダガスカル陸路横断紀行 ②

遙かなるバオバブへの道のり

広島県三次市 荒川共生



2人は無事広島空港に帰ってきました。

2013年3月より世界の友人を訪ねる旅を続け、今年3月に帰国しました。各地でのエピソードをお伝えします。マダガスカルを訪れた目的は巨木バオバブを見ること。バオバブは『星の王子さま』にも登場しますが、「神様が引っこ抜いて逆さまに植えた」と言われる木でもありません。マダガスカル島の西海岸

ムルンダバはバオバブ並木が有名です。首都アンタナナリブからアンツィラベを経由してムルンダバへ、650kmを2日かけ陸路で縦断しましたが、マダガスカルの陸路移動の過酷さを思い知った旅でした。

アンツィラベまでの160kmはタクシールースという庶民的な手段で移動。これが過酷な乗り物でした。定員以上の乗客を詰め込む、強引な客引き、満席になるまで出発しない、値段交渉、悪路で窮屈で蒸し暑い中の長時間移動など、散々な目にあい、タクシールースはもう乗りたくない！と心底思いました。当初、全行程でタクシールースを使う予定でしたが、マダガスカル在住の友人に強

く勧められ、アンツィラベから先は車をチャーターしていました。

2日目アンツィラベのホテルに来てくれたのは運転手のパトリックさん。四輪駆動車に乗り込み出発。棚田が広がる風景が続き、次第に丘陵地帯へ。突然、車が停止。長い車列が続いています。先週マダガスカルを縦断したモンスーンで氾濫した小川によって道路が寸断されていたので決壊しています。トラックやタクシールースの運転手たちはどうすることもできず、復旧を待つのみ。

そんな中、近くの村人たちが運転手と交渉を始めた。対岸に渡る手助けをするのでその労賃をくれ、ということのようです。ある運転手と交渉成立。車はそろそろと谷底へ。つかかえる度に大勢の村人が車を取り囲み、押したり引いたり、持ち上げたり大騒ぎ。なんとか対岸まで車を移動させることに成功。大歓声をあげる村人たち。泥だらけになりながらも嬉しそうです。一台目の成功を見た他の運転手たちは、次々と交渉

し対岸へ移動しはじめました。ところで私たちの運転手パトリックはというと、他の車が対岸へ渡っていくのを見て確信を深めたようで、助けがなくても4WDだから行ける、と言います。そして、助けを借りず車を谷底まで下ろすことに成功。村人はいつでも手を貸せるよう待機。今度は慎重に崖を登り始めます。

しかし！想像以上に傾斜がきつく、すぐにスタック。すると村人は「それ見たことか！」と大歓声をあげ、車を押し始めました。なんとか村人の助けを借り対岸にたどり着きました。結局パトリックさん、村人に労賃として9万アリアリ(約900円)を払いました。彼らにとつてこの



モンスーンで氾濫し決壊した川

道路決壊は、大きな臨時収入となったことでしょう。

このパブニングによって3時間ロスしましたが、その後は順調に移動。バオバブ並木が夕日に照らされる時間間に合いました。タクシールースの過酷な移動と道路決壊を乗り越え、2日かけてたどり着いたバオバブ並木の夕日は格別に美しかったです。

〈旅のアドバイス〉

※マダガスカルの移動は、公共交通機関が発達していない、道路網が整備されていないため、運転手付きレンタカーをおすすめします。
※ムルンダバのバオバブ並木は夕日に照らされる風景もいいですが、朝焼けのバオバブ並木もおすすめです。

※2人は両親が主宰する三次市の自然と農に触れる地球市民共育塾「共生庵」の活動に入られるそうです。二人の2年間の旅行は人生の大きな体験になったことでしょう。次号も楽しみにしています。

家庭で
できる
健康
味アミノ酸
オーシロカズミ

アラガ県を列車で移動中、誘われるようにして降り立ったスペインの田舎町には
白い民家と教会しかなかった。たまたまに捲えています。

緑少ない若肌の大木、石畳みの道と石造りの白い家々…… アンダルシア地方の
イメージを最も象徴するのが、カサレスの町ではないでしょうか。

6回 カサレス風ミルク雑炊

地元の人にすすめられて入った看板もないレストラン。
普通の民家の客間で、老夫婦が家庭料理を食卓させて
くれたのです。(軽井沢みたく)♡

季節の野菜を使った、とちうかといえは地味なお惣菜
は、じんわりとたまごめだためぐれまじだ。そなたが中
最も意外で忘れられない料理がこのミルク雑炊です。

- 材料(2~3人前)
- 冷や飯お碗1杯分
 - ベーコン3枚
 - じゃがいも小2個
 - パプリカ2個
 - トマト豆2個
 - コンソメキューブ1個
 - 牛乳300cc位



■作り方

- ① トマト豆は水洗いして、前の晩から水に浸しておく。
- ② トマト豆がやわらかくなるまで20~30分位水からゆでる。
- ③ 鍋に300ccほど水を入れ、小さく刻んだベーコンとコンソメを入れて火にかける。
- ④ 沸騰したら、5分弱角に刻んだパプリカとベーコンでもここのじゃがいも、そして②のトマト豆を加えて5分位煮る。
- ⑤ 冷や飯を水洗いし、ザルに上げてスタンプバイ。
- ⑥ 鍋に牛乳を加える。
- ⑦ 火を弱くし、お碗の半分ほどを流し出す。



⑤の冷や飯を入れ、塩コショウで味つける。

⑧ お好みでオリブや生クリーム(コーヒーフレッシュOK)とろけるチーズなどをトッピングしてネ！



スペインのお米は日本のような粘りけがなく、サラリと仕上がるのが特徴です。日本米で作ると、時間が経つにいたがいネっとりして〜、煮込みすぎると牛乳も分離してしまします。

ミルクを加えたその時点から、サラサラのつちてい分でも早くいただきます。

スペインは、ヨーロッパの中では比較のお米を多く食べる国です。ただ日本人のように、主食としてのみ食べるのではなく、お米を野菜のひとつとしてとらえていたんですよ。お米をミルクで甘く煮た「デザート」、マロスコン「ブレックファスト」、総品です。

この料理も「雑炊に牛乳」と思っていると「ミルク」と思っている人が多いので、「米入りミルクスープ」と思ってしまうのではないかと結構です。



余談ですが、スペインの田舎を歩いてみるとお米がすすか〜、お米をまいた。これでお米とお米になるんだから、スゴイですねえ〜……



増山麗奈さんの政界挑戦に思うこと



映画監督を自称する増山麗奈さんが夏の参議院東京選挙区で社民党から挑戦すると報道されるまで彼女のことはほとんど知らなかった。挑戦への賛否両論でネットが炎上していると聞いて関心をもった。一言でいうなら自由奔放に生きてきた女性だ。因みにネットのウイキペディアで検索すると、『日本の画家・パーフォーマー・作家・芸術家・ジャーナリスト・市民活動家・映画監督・超左翼マガ

ジン編集委員・反戦アート集団「桃色ゲリラ」主宰等。反原発活動家でもある。『性』をおおっぴらに語り、『下品』な発言が話題になり、『金銭疑惑』もあったから伝説ある社民党にふさわしくない、支持者が逃げる等と党内外で反対意見も強くあったそう。『資本主義に愛はあるのか』と叫ぶ彼女の写真の次に「公開オナニーをするような人間を公式擁立、社民党マジキチ」との抗議もネットに出ている。

奔放な男性遍歴、拒食症、自殺未遂などからの脱出が増山れなさんの表現の原点だが、バツイチで子どももいるし、再婚相手の戦場・環境ジャーナリストの志葉玲氏との間にも子どもが。「人前で乳房をさらして行う母乳アートやセクシヤルな女性の肢体を描くネオ春画などで有名」なの

だそう。インドでは小学生と共同で絵画に取り組んだり世界各地で個展、グループ展を開く。

増山れなさんは時代より進み過ぎて現代の常識人から批判されているのかもしれない。古来歴史を動かして来たのは、その時代の枠を飛び越えた先人の活躍だ。社会党・社民党は次代を切り開く革新政党だと称していたが、いつの間にか原理原則に囚われた保守政党になってしまったのではないか？ だったら増山れなさんのような、突拍子もない人が出ての意味があるように思う。

意外にまっとうな女性かも

増山麗奈っていったいどんな女性かと思ひ、彼女が出る集会に出かけてみた。登山用のでっかいリュックを担いで増山れなさんはターコイズのスイーツに身を包んで途中から現れた。頑丈で力持ちという



会でも皆の意見を順々に丁寧に聞いていた。気がつくとも鉛筆をノートに走らせて1人1人の似顔絵を名前と顔を一致させるため描いている。「そんなん皆にやったら大変じゃん」との声に「私は似顔絵屋として生活の糧を得ていた元芸大生よ」とのこと。

だけあって男でも重いリュックである。ヒマラヤ登山の経験もあるとか。挨拶にはどこかギョコチなさがあつたが、自分と政治との関わりを語った。意地悪な質問も飛んだが「私には直接非難の声は来ないで、逆に励ましが多い」とにこやかに答えていた。お酒が大好きという彼女。二次

編集後記

人生色々、人も色々。越後の歌人良寛さんは無邪気な手まりで童と遊ぶ。平成を突き抜けた生き方をする増山れなさんは世俗的な政治家をめざすとか。それなら皆で選挙に行こうと呼びかける荒木さん。他方シールズの若者は積極的に政治参加しようとする。また、三条市の外山グループ

オジさん達が嬉しそうに携帯で自分の似顔絵を写していた。ネットには女優並みに様々な顔をした彼女が登場するが、政治家として都民が認めるかどうか？ 「桃色のジャンヌダルク」とも言われる彼女が社民党のジャンヌダルクになり得るのだろうか？ 注目したい。

を率いる外山晴一社長は現國定市長を民主主義の敵だと糾弾し、小中一体型校を批判する。かと思うと2年間の世界旅行から帰国された荒川夫妻は牧師だった父君の共生庵自然塾を引き継ぐと言う。権力を引き継いだ金正恩は国内外の精神的プレッシャーでドン・肥満体になりストレスに耐え切れず暴発しないかと心配だ。読者の皆さんはどんな生き方をされてますか？

恭子の日記 ⑥

私の中学時代をつなぐ寺子屋

私は長年、寺子屋を開いている。寺子屋に来ている子供たちの様子を見ていて、ふと私も自分の中学校の頃を思い出した。

気になる子がいて、渡り廊下ですれ違うときにとてもドキドキした。目も合わせられず、胸のドキドキを聞かれるのではないかと思った瞬間、手に持っていた教科書を思わ

ず落としてしまった。恥ずかしくて走って教室まで帰った。どうして走って目立ってしまったのか、どうして教科書をあの場で落としたのか、泣きたくなった。

自分のことなのに、何もかも思い通りにいかなくて、かっこ悪くて、毎日後悔と、恥ずかしさと、戸惑いの日々を送っていたような気がする。

今の子は普通に仲良く話し、普通に笑いあい、とても大人の対応をしあっている。時代が進んだのだなあと思う。時代が進んだのだなあと思う。時代が進んだのだなあと思う。時代が進んだのだなあと思う。

風になんか表現できなかった。好きなと言う言葉が恥ずかしく頭の中で響いて、頭の中は大混乱。いつも胸が切なくなつた。それなのに誰かを好きになつたと言う気持ちだけで一杯幸せな気分だった。それだけで十分だった。

とたん、幼い私の恋はいつも消えてしまった。幼くてガラスの様に壊れやすい心の中学時代を過ごした。

ただなぜだろう。とても懐かしくあたたかく、思い返すたびに素敵な気持ちになる。あの頃の私は、いつも生徒会室に入り浸っていた。私は生徒会と対抗する評議員で、対立意見を言う代表者の1人だった。

全校集会では意見は対立させるが普段の私たちはとても仲が良かった。いつも生徒会室に遅くまで残っていた。部

活が終わっても生徒会室に行き、下校時刻になって固まって帰るときの夕焼けの綺麗さを今でも覚えている。

今の子達のように何もうまい事は言えないけれど、みんな黙って歩くのだけれど、なんだか心が一つになっていたような気がする。あの頃の帰り際の夕焼けと7〜8人の仲間間の不思議な連帯感を覚えている。思い出は一生その人について回るのだと思う。幸せな思いは決して消えない。私の大昔の中学生の頃の幸せな風景を久しぶりに思い起し、心があたたかくなった。

だからこそ私の寺子屋の子供たちにも良い経験、良い思い、幸せな心を、沢山与えてあげたいと思っている。寺子屋の子供たちがとても仲良く話したり、笑いあったりしているのを見るのが、今は本当に幸せだ。いつの日かこの子たちの「懐かしい思い出になる幸せの記憶」の中に、年老いた私も確かにいるのだから。



「壽老人」

熊本災害に寄せて、大切な命を司る寿老人と福祿寿を描きました。未来の子どもたちの命も守りたい (中田恭子記)

「福祿寿」

